

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°57 トニー・ボールナール

生産地方：ジュラ

新着ワイン3種類♪

VdF ル・シャルド・ゲ 2013(白)

2013年は、ミルデューの影響で13 hL/haと、当初予想していた収量の半分以下しかブドウがとれなかった。畑はピュピランの丘の上、石灰岩の断崖の上にあり、土壌は100%石灰質！味わいの中にも、チョークのような細かく繊細なミネラルが感じられ、まるでブルゴーニュのシャルドネのような雰囲気がある！

VdF ル・ヴァン・ド・プルサール・ウーヴル・レスプリ 2013(赤)

ワイン名には、「プルサールというマイナー品種にも素晴らしいワインがある！もっとプルサールを知ってほしい！」という願いが込められている！2013年は不幸にも大規模な花流れの被害に遭い、収量はたったの6hL/ha！と当初予想していた量の5分の1に終わった…。ただ、早いうちからブドウが少なかったため、病気にもならず、収穫したブドウは完璧だった！量が少ないので、醸造は細心の注意を払い、手を加えるのも1日1回手で静かに果房を果汁に沈めるだけの作業のみ！香りの華やかさを壊さないようにと、仕込みと熟成は全てタンクのみで行っている！赤い果実の香りより、洋ナシや白桃等の白い果実と花の香りが華やかで、上品な味わいだ！

VdF ル・ピノ・ノワール 2013(赤)

「これぞまさにTHEピノ・ノワール！」というストレートな名前だが、トニー曰く、ワインが出来上がって名前を付ける時にこれ以上相応しい名前が思い浮かばなかったそうだ。2013年は、シャルドネ同様、ミルデューの影響で16 hL/haと、当初予想していた収量の半分しかブドウがとれなかった。ワインはまだ若干硬いがとても気品があり、洗練されている！今年から父フィリップのピノの畑を0.52 ha譲り受け、計0.85 haの畑で更なる質の向上を目指す！

ミレジム情報 当主「トニー・ボールナール」のコメント

2013年は、平均収量が12 hL/haと全体的に収量が少なく、立ち上げ1年目としてはかなり厳しいスタートだった…。4月5月と気温が低く雨が多かった影響で、かつてない規模で花が流れてしまい、多くのブドウが開花を待たずに蔓に変わってしまった…。7月はいく分天候が回復し太陽にも恵まれたのだが、8月に入り再び気温が低く雨の多い日が続いた。この悪天候の影響で、8月終わりだということにブドウ畑にミルデューが繁殖し始めた。9月に入り真夏のような太陽が戻ってきたのだが、ブドウの房自体がすでに少なく、収穫はわずか1日で全て終了してしまっただ…。ただ、収穫したブドウは、房が少なかった分フェノールが適度に熟し、酸と糖のバランスもとても良かった！

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

フィリップ・ボールナール Jrのトニーのワインがついに日本上陸～！トニーのワインは、ラベルが何ともポップでファンキーだが、これをデザインしたのは妹のシャロレーヌ！ラベルの表裏にある白黒の子ギツネがトニーのトレードマークだそうだ。

今回、トニーに「フィリップを父に持つプレッシャーはないか？」聞いてみたところ、彼は至って普通に、「全くプレッシャーはない」と答えた。むしろ、やれ「エチケットのデザインは何だ！？」とか「なぜいきなりVdFなんだ？オペレーションを最初から拒否するとは、ジュラのワインに誇りがないのか？」など、ボールナール家の跡取りということで、まわりのヴィニョロンからうるさくはやし立てられているようだ。

一方、フィリップにトニーのデビューについて聞いてみると、「あいつはまだ何も分かっていないし、まだまだ青二才だ！」と父親らしい厳しい答えが返ってきた。でも、その割には今年トニーにピノの区画の一部を譲ったり、そもそもトニーのワインを最初にヴァンクүүлに奨めたのもフィリップ！今回トニーのインタビューを行った時に、一番落ち着かなかったのもフィリップ！！（笑）

息子の前では厳しいことを言う彼も、やっぱり本当は息子が心配で応援したくて仕方ないのだろう。訪問の最後、フィリップに「ヨシ！心配するな！トニーは一人ではなく、ちゃんと後ろに俺がついているから大丈夫だ！」と伝えられ、その言葉からフィリップの親心とトニーを立派なヴィニョロンに育て上げるという決意を感じ取り、ドメーヌを後にした。フィリップだけでも話題に事欠かないのに、更にトニーも加わって、今後ボールナール家のネタに困ることはないだろう（笑）これからますます目が離せなくなった！

（2015.7.3.ドメーヌ突撃訪問より）